

七条中学校だより7月6号

京都市立七条中学校

令和8年7月7日

発行:校長 林 秀雄

夏季大会に向けて3 親の立場から見た夏季大会

明日は夏季大会・コンクールの激励会があります。これまでの学校だよりで私は、「努力の価値」や「自分を信じる事」について伝えてきました。今回は少し視点を変えて、「親の立場から見た夏季大会」について考えてみたいと思います。

皆さんは、この三年間、部活動や習い事を始めてから今日まで、多くの時間を練習に費やしてきたことでしょう。暑い日も寒い日も、時には思うような結果が出ずに悩みながらも、それでも前を向いて努力を続けてきました。その姿をずっと見守ってきた人たちがいます。それは、おうちの人です。

皆さんが早朝から試合に出かける日は、自分よりも早く起きてお弁当を作ってくれた人がいたかもしれません。練習や試合が終わる時間に合わせて迎えに来てくれた人もいたでしょう。ユニフォームを洗い、道具の手入れをし、時には送り迎えのために自分の予定を調整してくれた人もいたはずです。

けれども、おうちの人が支えてきたのは、そうした目に見えることだけではありません。試合で負けて落ち込む皆さんの姿を見て心配したこともあったでしょう。レギュラーになれず悔しそうにしている姿に胸を痛めたこともあったでしょう。友達とのことや部活動のことで悩み、苦しんでいる様子を見ながら、「何とか力になってあげたい」と思いつつ、ただ見守るしかできなかったこともあったはずです。

親は、子どもが頑張る姿を誰よりも長く見てきた存在です。うまくいった時の笑顔も、思い通りにならず落ち込んだ日々も知っています。

親というものは不思議です。結果そのものよりも、そこに至るまでの努力や苦勞を知っているからこそ、我が子が一生懸命にプレーする姿を見るだけで胸が熱くなるのです。

試合会場で皆さんの姿を見つけると、それだけでうれしい。

活躍すれば、自分のことのようにうれしい。

失敗すれば、自分のことのように悔しい。

そして、最後まであきらめずに頑張る姿を見ると、それだけで胸がいっぱいになるのです。

少し大げさな言い方かもしれませんが、子どもの成長は、親にとって何ものにも代えがたい喜びであり、希望であり、生きがいです。

だからこそ、おうちの人も皆さんと同じように、この夏季大会を特別な思いで迎えています。ただ、皆さんの中には、「親なんだから当たり前」「迎えに来てくれるのは当然」「用具を買ってもらうのも普通」そんなふうに思っている人もいるかもしれません。

しかし、おうちの人も毎日仕事をし、家事をし、自分自身の生活を送りながら皆さんを支えています。

「これを買って」「明日は朝早く送って」「お弁当を作って」そう言われれば、できる限り応えようとするのが親です。けれど、本当は親だって結構頑張っているのです。

だから時々、「少しはありがたいと思ってくれているのかな？」そんなことを考えることもあります。

もちろん、おうち的人是感謝されたいから応援しているわけではありません。見返りを求めて支えているわけでもありません。それでも、「ありがとう」たったその一言だけで、とても幸せな気持ちになるものです。

夏季大会は、自分のこれまでの努力を表現する舞台です。しかし同時に、自分一人ではここまで来られなかったことに気づく機会でもあります。仲間がいて、先生がいて、指導して下さる方々がいて、そして何より一番近くで支えてくれた家族がいた。そのことを、少しだけ思い出してみてください。大会の前でも後でも構いません。言葉でも、手紙でも、LINEでも、少し照れくさいなら態度でも構いません。

「感謝しているよ」

その思いを、何らかの形で伝えてみてほしいと思います。皆さんが全力でプレーする姿、最後まで挑戦する姿こそが、おうちの人にとって最高の贈り物です。そして、その姿に感謝の言葉が添えられたなら、それはきっと家族にとっても忘れられない夏になることでしょう。

七条中学校の皆さん。

皆さんのこれまでの努力は、決して一人だけのものではありません。多くの人々の支えの上に積み重ねられてきたものです。試合に出る、出ないに関わらず、是非おうちの人に、試合を見に来てもらうように、言葉で伝えてください。どうか感謝の気持ちを胸に、自分を信じ、仲間を信じ、支えてくれた人たちの思いも力に変えて、最高の夏季大会・コンクールにしてください。

皆さんの全力の姿が、多くの人に勇気と感動を届けてくれることを、私は心から願っています。